

「自己発揮しながら決まりをつくる」 「自分のコマ」



出典：久保健太「主体性が湧き出ちゃう保育：一緒に決まりをつくっていく（その1）」第13回（『保育通信』2026年1月号、No.850、p38）

- ・決まりは何のためにあるのでしょうか？
- ・大人が決めた「決まり」と、子どもたち自身が決める「決まり」にはどのような違いがあるのでしょうか？
- ・子どもたち自身が決まりをつくることができる環境には、何が必要でしょうか？

『コマ』廻しが年明けから園で流行している。自分で紐を巻いてコマを廻したり、手に乗せる『手ごま』などの技に挑戦をしたり、友だちと一緒にコマを廻し、どちらが長くまわり続けるかを競って楽しんでいる。特に、年長児は園長先生の前でコマを廻せると『コマ名人』になり、自分のコマを貰うことが出来ることもあり張り切っている。

異年齢で過ごす夕方の時間、年長児が「自分のコマをまわしたい」と言った。少中児は持っていないから羨ましくなっちゃうということと、無くしてしまったら大変であることを伝えると、渋々と園のコマを使った。すると、年長児のTくんは黙々と素材を取り出し何かを作り始めた。そしてコマ廻しをしているみんなに「これつけたら自分だけのコマだよ！」と言った。『自分のコマをまわしたい』気持ちだった年長児だけでなく、少中児も『自分のコマ』を作り始めた。自分の好きな色の素材を切ったり、テープを貼ったり、大きさも様々で、大きくして羽のようにしてみたりと自分たちで工夫していた。

Tくんのヒラメキが『自分のコマ』をみんなが楽しむきっかけとなっていた。自分たちで決まりを作っていくことで、より『楽しい』『面白い』と感じているように思えた。その日から、『自分のコマ』を進化させ今まで以上に日々コマ廻しを楽しんでいる。